

山陰労災病院

初期臨床研修医募集案内



山陰労災病院の理念と基本方針

<理念>

私たちは、信頼される・優しい・安全な医療を提供し、地域の皆様と勤労者の健康を守ります。

<基本方針>

1. 勤労者医療を担い、働く人々の健康維持に貢献します。
2. 救急医療に精励し、地域の信頼に応えます。
3. 地域の医療・介護・福祉機関と連携し、地域医療を支援します。
4. 最新の医学と医療を学び、患者さん中心の優しい医療を提供します。
5. 患者さんと協同し、安全、安心な医療を提供します。
6. 豊かな人間性と高い技能をもつ医療人を育成します。
7. 医療人としての誇りと志を持ち、働き甲斐のある病院作りを目指します。

山陰労災病院長
臨床研修管理委員会委員長

大野 耕策（おおの こうさく）

1. 山陰労災病院の概要

当院は、独立行政法人労働者健康安全機構 労災病院グループの一員として、働く人々の健康を守る「勤労者医療」を実践すると共に、地域の中核病院として24診療科、医師85名（研修医含む）、外来1日平均患者数約705.1名（昨年度実績）、病床数377床の急性期医療を担っています。

2. 臨床研修病院としての受け入れ状況

当院は、新医師臨床研修制度が始まった平成16年度から、管理型臨床研修病院として研修医3名を受け入れ、平成17年4月は4名、平成19年は3名、平成21年度、22年度は各2名そして平成23年度、24年度は各5名、25年度から28年度は各4名、29年度は2名の研修医を迎え、協力型臨床研修病院の鳥取大学医学部附属病院、米子医療センター、博愛病院、済生会境港総合病院、米子病院などと連携を取って研修を進めています。現在まで研修医32名に対して「臨床研修修了証」を交付することが出来ました。研修医の指導体制は、指導医53名が当院の初期臨床研修プログラムに沿って、土・日曜日を含めてマンツーマンの指導を行っています。なお、当院の初期臨床研修プログラムは鳥取大学医学部附属病院のプログラムと整合性をもたせて行っています。平成31年度当院臨床研修医募集要項は、当院ホームページに掲載しています。

2年間の初期臨床研修を終了後に、2～3年間の研修医の専門性を取り入れた15の後期臨床研修コースを設けており、若干名を嘱託医として採用する予定です。

3. 当院の目指す研修医

当院の基本方針は、初期臨床研修の2年間でプライマリケアに十分対応できる心・技・体とも優れた臨床医を育成することです。どのような状況が起っても、指導医が研修医を受け止める体制を作っています。後期臨床研修では専門性を取り入れ、全国的に通用する高い診療能力を有する臨床医を育成し、最終目標は当院で研修して良かったと高い評価を受けることです。

臨床研修センター長（副院長）

福谷 幸二（ふくたに こうじ）

山陰労災病院は、鳥取県西部では鳥取大学医学部附属病院に次いで2番目に病床数が多く、現在377床、24の診療科をもつ総合病院です。

昨年度の時間外救急患者数は約8,400例と、この地区では大学病院より多く救急患者を受け入れ、鳥取県西部の二次救急の中核を担っています。

疾患別には脳卒中、急性心筋梗塞など、鳥取県西部の他の二次救急病院では受け入れ困難な症例を唯一受け入れており、地域医療に大きく貢献しています。

山陰労災病院の臨床研修プログラムの特徴の一つは、救急の研修において、2次救急をしっかりと研修ができる環境にあり、2年間を通して研修を行うプログラムとなっていること。これは、決まった数か月のみ救急研修を行うのではなく、途切れることなく研修ができるというメリットがあります。

また、研修の方針で重要視しているのは、研修評価においてEPOCではなくポートフォリオを使用していることです。研修医の記録に対して、必ず各指導医がアドバイスを記入し返すことで形成的評価を行っています。その他、当直は休日の日勤帯のみとしていることです。これは、当院の特徴でもある二次救急患者が日勤帯にも多くあること、また、夜間の当直を気にせず、夕方からは自分の勉強時間を取ることが出来るからです。しかしながら、もっと救急を研修したい場合は、基本夜間の当直を義務付けてはいませんが、希望すれば夜間も当直をすることは可能です。

山陰の風光明媚な場所での研修を希望される研修医をお待ちしています。

臨床研修副センター長（循環器科部長）

水田 栄之助（みづた えいのすけ）

当院は地域上高齢者で合併症を多く持った患者様がたくさん来られます。例えば、元々糖尿病あり、心不全・腎不全も合併しているような患者様が、経過中脳梗塞を発症し寝たきりとなり、その後誤嚥性肺炎を発症し当院に救急搬送されるような患者様が数多くおられます。三次救急病院など高度医療機関ではそれぞれの病気を深く勉強できるのに対して、当院のような二次救急病院では一人の患者様を通じて様々な病気を勉強することができます。「病気を診ずして病人を診よ」ということは研修医にとって非常に大事なことと考えます。

また当院は大学病院だけではなく全国の労災病院とのつながりがあり、希望すれば他地区の労災病院での研修も可能です。

是非当院で「一人の患者様を総合的に診る」というトレーニングをしていただきたいと思います。

臨床研修プログラムの基本理念

- 1 医師として人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、全人的な幅広い基本的診療能力（知識、技能、態度）を身につけた臨床医の育成
- 2 患者の視点に立ち、患者の気持ちを思いやることのできる医師の育成
- 3 鳥取県並びに山陰地方の地域医療の特殊性を十分に考慮し、一丸となった研修医育成への取り組み
- 4 研修医個人に着目したプログラム
- 5 マンツーマン方式を基本とした指導医体制の確立並びに適切な研修評価の実施

I プログラム名称

山陰労災病院合同臨床研修プログラム (030893202)

II プログラムの目的と特徴

内科研修については、各内科診療科の複数科での研修を行い、外科研修についても、一般外科のみならず、整形外科、脳神経外科などの知識の習得が可能です。これは研修期間中の指導医－研修医の連携を重要視して、診療科を越えた研修体制を構築しているからです。医師臨床研修の大きな目標である**common disease**を経験してトリアージができるよう当院では救急部門の研修を重視しています。多種多様な救急患者が訪れるという当院の特徴を生かし、2年間を通して土日、祝日の日勤帯のみを**duty**とした救急外来研修を行います。指導医と各科バックアップ体制のもとに、軽症から**ACLS** への対応まで、幅広い研修を効率的に行うことができます。

2年目は研修医の希望による選択科目を最大11ヵ月設定できるほか、最後に「まとめ期間」を設定しており、経験目標が達成されていない項目があればこの期間に補うことができます。また、研修医が必修科目、選択科目のプログラムを5病院において自由に設定することも可能です。

症例報告などの学会報告を奨励しており、指導医や専門医がその指導に当たります。またポートフォリオによる評価法を取り入れ、月毎に形成的評価やメンタルサポートができるよう配慮しています。

III プログラム内容

- 1 研修医は全員、医師臨床研修センターに所属する。
- 2 本院を「基幹型病院」そして教育関連病院を「協力型病院」並びに介護老人保健施設、産業保健推進センター等を「協力施設」とする臨床研修病院群を形成する。
- 3 ローテート研修を基本原則とし、
 - ① 必修科目：内科6ヶ月（消化器内科1、循環器科1、呼吸器・感染症内科1、腎臓内科1、糖代謝内科1、神経内科1ヶ月）
救急部門は研修開始時に1ヶ月間麻酔科と各科救急係として基礎研修後、土日・祝祭日の日勤帯のみ指導医と共に2年間を通して救急外来で研修を行う（合計3ヶ月）。
 - ② 選択必修科目：外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科のうち2科目が選択必修であるが、実質的にこれらの研修を行う。

- ③ 選 択 科 目：残りの期間を選択科目として、本院（並びに教育関連病院）の診療科を対象として研修医の選択による自由な研修とする。
- ④ 地 域 医 療：山間病院で実地体験の中で研修する。
- 4 基本研修科目の研修を開始する最初の1週間を利用してコメディカル部門を含む「プレローテーションカリキュラム」を設定する。
- 5 各科研修後にはポートフォリオに自己評価、感想、考察また指導医のコメントなどを記入してプログラム責任者のチェックの後に各自ファイルに保管する。救急部門のポートフォリオはその都度提出する。1年目の基本研修科目終了時点で、臨床研修管理委員会が評価し足りないところを2年目の選択ローテートで補うようにする。
- ※ その他、当院プログラムでは研修医の健康管理、特に精神的なケアが十分になされるように配慮しています。また、IT設備や教育シュミレーター等を利用して研修医が十分な環境で研修できるよう配慮しているほか、医療安全管理部門が設置されており、あわせて患者相談窓口の充実も図られており「医療安全」に関する研修も充分に対応できます。

■ プログラム参加施設（研修場所として選択可能）

協力病院：鳥取大学医学部附属病院（米子市）

博愛病院（米子市）

鳥取県済会生会境港総合病院（境港市）

米子医療センター（米子市）

米子病院（米子市）

日野病院（日野町）

日南病院（日南町）

協力施設：鳥取県済生会地域ケアセンター（境港市）

鳥取産業保健総合支援センター（鳥取市）

島根産業保健総合支援センター（松江市）

鳥取県赤十字血液センター（鳥取市、米子市）

■ 研修可能な研修診療科名

<山陰労災病院>

内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、呼吸器・感染症内科、腎臓内科、精神科（心療科）、神経内科、循環器科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

<鳥取大学医学部附属病院>

第一内科、第二内科、第三内科、精神科・神経科外科、小児科、
第一外科、第二外科、整形外科、脳神経外科、脳神経内科、
脳神経小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
放射線科、麻酔科、臨床検査医学・検査部、救急部、
高次集中治療部、病理部、薬剤部、医療情報部

<博愛病院>

内科、小児科、整形外科、産婦人科、放射線科

<鳥取県済生会境港総合病院>

内科、外科、整形外科、放射線科

<米子医療センター>

内科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、放射線科

<米子病院>

精神科

<日野病院・日南病院>

地域医療

■ 年間研修スケジュール（基本例）

1年次	プレ ↑	救急 基礎	内科6ヶ月 (消化器1、循環器1、呼吸器・感染症1、腎臓1、糖代謝1、神経内科1)	外科	小児科	産婦人科	精神科	地域医療
			救急部門					
プレローテーション								
2年次	選 択							まとめ 期間
	救急部門							

■ 当直体制

- ・ 日直医/2名（内科、外科系） 宿直医/1名（内科又は外科系）
- ・ 研修医/1名（指導医のもとで日直のみ。全診療科オンコール体制）
- ・ 研修医日直回数：月平均2回

■ 評価方法

研修実施に対して、到達目標（行動目標と経験目標）を掲げ、その到達度を各診療科（必修科目、選択科目）のプログラム終了毎に、ポートフォリオによる形成的評価を行う。

- ① 研修医自身による自己評価
- ② 指導医による評価
- ③ 第三者（看護師等）による評価

■ 修了認定

臨床研修管理委員会の評価をもとに、病院長が修了証書を授与する。

■ 研修実績

平成16年度：1年次3名

平成17年度：1年次4名、2年次3名（3名修了）

平成18年度：1年次0名、2年次4名（4名修了）

平成19年度：1年次3名、2年次0名

平成20年度：1年次0名、2年次3名（3名修了）

平成21年度：1年次2名、2年次0名

平成22年度：1年次2名、2年次2名（2名修了）

平成23年度：1年次5名、2年次2名（2名修了）

平成24年度：1年次5名、2年次5名（5名修了）

平成25年度：1年次4名、2年次5名（5名修了）

平成26年度：1年次5名、2年次3名（3名修了）

（1名育児休職にて1年次より再開）

平成27年度：1年次4名、2年次5名（5名修了）

平成28年度：1年次4名、2年次4名（4名修了）

平成29年度：1年次2名、2年次4名（4名修了）

平成30年度：1年次1名、2年次2名

IV 研修プログラムの公表方法

臨床研修病院ガイドブック及び当院のホームページに掲載。

山陰労災病院ホームページURL：<https://www.saninh.johas.go.jp>

V 研修終了後の進路

引き続き山陰労災病院での後期臨床研修を希望する場合は、14診療科

（15プログラム）定員若干名で2～3年間研修可能。面接により採用の可否を決定。また、その他の診療科での研修希望があれば相談の上決定致します。

VI 処遇について

- ・身分：研修医（常勤嘱託職員）
- ・給与：1年次 基本給333,700円/月（年収約500万円（税込））
2年次 基本給375,400円/月（年収約630万円（税込））
※年収は、時間外勤務手当等その他諸手当を含むおおよその額
- ・勤務時間及び休暇：非常勤職員の例に準じて定める。
- ・宿舎：公舎有り（単身用5,000円前後/月、世帯用10,000円前後/月）
病院敷地内及び当院より500m以内であり、徒歩2～10分
全個室、駐車場有。
- ・社会保険：健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険適用。
- ・健康管理：健康診断、予防接種等は常勤職員に準ずる。
- ・医師賠償責任保険：病院で加入する病院賠償責任保険を適用。
- ・研修医室：有り。（ロッカー、書架、仮眠場所有り）
- ・医学用図書室：有り。
- ・インターネット環境：院内LANの利用可。
- ・自主的な研修活動：各種学会、研修会への積極的な参加を奨励し、費用の一部補助有り。（常勤職員に準ずる）

VII 応募方法・試験概要について

- <応募資格> 平成31年医師国家試験受験予定者
平成30年医師国家試験合格者
- <研修医募集定員数> 5名
- <選考方法> 面接及び書類審査
- <申込期間> 平成30年7月3日～平成30年8月15日
- <選考面接日及び場所> 面接日：平成30年8月16日～9月初旬
※ 面接希望日に沿って調整致します。
場 所：山陰労災病院

<応募の手続き>

次の出願書類一式を病院に直接持参又は簡易書留にて郵送願います。

- 【出願書類】ア) **臨床研修願**：当院所定の用紙を使用。
イ) **履歴書**：当院所定の用紙に高等学校以降の履歴を記載し、
顔写真（3ヶ月以内撮影）を貼付すること。
ウ) **成績証明書**：大学医学部成績証明書。
エ) **健康診断書**：大学発行のもので可。
オ) **卒業証書の写し**、または**卒業見込み証明書**。
・既卒者：大学医学部卒業証書の写し。
(医師免許証既取得者は、医師免許証の写しも送付)

・平成31年3月卒業予定者：大学医学部卒業見込み証明書。

【応募先】 〒683-8605

鳥取県米子市皆生新田1-8-1

山陰労災病院 医師臨床研修センター事務担当 宛

<マッチングについて>

当院は、医師臨床研修マッチング協会が行うマッチング参加病院です。

<採用の可否について>

マッチング結果発表をもって可否通知とする。

ただし、平成31年医師国家試験受験予定者については、これに合格することが条件となる。

<採用日> 平成31年4月1日

<臨床研修医募集に関する照会先>

山陰労災病院 医師臨床研修センター事務担当

TEL 0859-33-8181

FAX 0859-22-9651

※臨床研修に関する各種お問い合わせ、また、病院見学の希望等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

<山陰労災病院への交通手段>

JR米子駅前3番バス乗り場から「労災病院行き」又は「イオン行き」に乗車。所要時間約20分



VI 山陰労災病院概況（病院番号 030892）

- ・ 病床数 377床
 - ・ 診療科目 内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、呼吸器・感染症内科、腎臓内科、精神科、神経内科、循環器科、小児科、外科、消化器外科、整形外科（関節整形外科、脊椎整形外科）、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科、（周産期母子センター、腎センター、勤労者脊椎・腰痛センター、勤労者脳卒中センター、勤労者メンタルヘルスセンター、アスベスト疾患センター、治療就労両立支援部）
 - ・ 1日平均入院患者数 296.3名
 - ・ 1日平均外来患者数 633.3名
 - ・ 平均在院日数（一般） 14.3日
 - ・ 剖検件数 4件
- （平成29年度実績）

■ 救急医療体制

昭和54年から鳥取県西部地区病院群輪番制を実施し、翌昭和55年より救急病院の指定を受け、以来二次救急を受け持っています。また、平成13年2月より救急医療体制の充実を図るため救急棟を新築し、同年4月より病院群平日輪番制の実施に積極的に参画しています。現在では、年間約8,400人の救急患者を受入れ、救急搬送患者については年間約2,000人以上の受け入れを行なっています。また救急体制は、オンコールにより全診療科で対応しています。

- ・ 1日平均救急外来患者数 26.0名
- （平成29年度実績）

■ 臨床研修医数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
初期臨床研修医	8名	6名	3名
・ 1年目研修医数	4名	2名	1名
（他、大学より受入）	（1名）	（2名）	（0名）
・ 2年目研修医数	4名	4名	2名
（他、大学より受入）	（2名）	（2名）	（2名）
後期臨床研修医	5名	8名	6名

※ 大学からの受入は、短期を含む人数

■ 診療科、医師数（初期臨床研修医を除く）

診療科名	内科	精神科	神経内	循環	小児	外科	整形	脳外	心外	皮膚	産婦	泌尿	眼科	耳鼻	麻酔	放射	リハ	病理	検査	合計
医師数	20	1	3	8	4	6	6	2	2	1	3	2	2	3	6	2	1	1	1	74
内指導医数	12	1	2	5	3	5	4	2	1	1	1	2	1	2	4	1	1	1	0	49
病床数	78	1	26	25	14	40	54	20	7	1	14	12	3	5	1	1	0	0	0	※ 377

※ 他、救急病床（20床）、HCU（8床）、地域包括ケア病棟（47床）（平成30年6月1日現在）

当院は、鳥取県西部（米子市）に位置し、周囲には東に国立公園大山、北に隠岐島が浮かぶ日本海、西に宍道湖につながる中海を有し、きわめて風光明媚な環境にあります。心にゆとりを持ってこの地にしっかりと根ざし、患者中心の医療を展開できると信じています。多くの皆様の当院プログラムへの参加をお待ちしております。



病院屋上より眺めた国立公園大山



皆生海岸と日本海